

事業の実施内容及び実績に関する報告書

I 地域の課題

「脱 孤子育て・孤子育ち～地域で子どもを育む～」

「泣きやまない子どもを前に、自分も泣いたことが何回もある。」

「国語や数学は習ったけど「子育て」は習っていない。だから育児雑誌や育児書を教科書代わりにしてしまう。」

「子どもと二人きりの時間が長く苦痛。ストレスがたまるよ～」

（「お母さんのつぶやき集 悩んでいるのは私だけ!？」（2011年3月10日発行小金井市子ども家庭支援センターゆりかご）より抜粋）

小金井市子ども家庭支援センターゆりかご（子育てひろば）では、誰にでもあるはずなのにあまり表現されていない、日頃なかなか口に出せない心の内、母のネガティブな感情を、「私だけではなかった」と思ってもらえるようにと、ゆりかご利用者の実際の声をつぶやき集としてまとめた。この小冊子は、あまりにも母の実感を露呈しているため、手に取った新米ママがかえって不安を助長するのではないか、という危惧から広く配布するのをためられる声も編集者側からあがったほどであった。

また、小金井市において次世代育成支援後期行動計画を策定する際に行った市民アンケート調査結果では、「子育てについての悩み・気になること」という問いに対し、就学前の保護者は「子どもを叱りすぎているような気がする」ことが43.5%、「育児・しつけの方法がよくわからないこと」が31.4%、小学生の保護者は「事故や犯罪に関すること」が53.2%、「友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること」が50%という回答を得ている。

近年、家庭と地域、人と人との結びつきが薄くなり、子どもや親の孤立化が深刻な問題となっている。さらに、経済的な負担増加や社会環境の悪化などにより、子どもを産み育てることに不安を感じる人も多い。

これは、小金井市においても同様であり、これらの課題を解決するために、子育てに関する情報交換や相談ができる場、子育ての仲間づくりの場などをつくり、子育て家庭が子どもを産み育てるために必要な精神的負担を軽減することが求められている。また、子ども同士や親、地域の大人との出会いが、安心と信頼に満ちていることによって、子どもが健やかに育つことができるよう、子どもの育ちを地域ぐるみのネットワークで支えていくことも必要である。

子育て家庭がつながっていけるようなネットワークづくりと、広く地域の支援が届くシステムづくりの取組、すなわち、地域の子育て支援機能の充実、

行政のみで実現できるものではなく、子育て・子育て支援活動に取り組んでいる NPO、市民活動団体等の自主的な活動との連携により行うことがより効果的である。小金井市においては、子育て・子育て支援に関する市民活動が非常に活発に行われており、この個々の活動の情報発信と相互援助がより活性化されれば、地域の子育て環境の向上につながるものと考えられる。

そこで、小金井市、子育て・子育て関係機関、子育て・子育て活動に取り組む市民活動団体等により小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会を設立し、「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、子育て・子育て支援のための各種事業を展開するとともに、モデル事業の終了後も事業を継続し、さらに発展させることを目指すものである。

なお、子育て支援ネットワーク事業は、「のびゆくこどもプラン小金井（小金井市次世代支援後期行動計画）」にも掲げられている重要な行政施策でもある。

Ⅱ モデル事業の概要

1 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会運営事業

小金井市、子育て関係機関（施設）、子育て活動団体で小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会（以下「協議会」という。）を設立・運営し、協働して各種事業を実施した。協議会には、現在44団体が参加している。（別紙参照）

2 「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」事業

小金井が、子育てしやすいまち、子どもらしい育ちのできるまち、子どもとともに大人も学び育っていけるまちになるように、協議会の名で「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」をした。（平成24年7月3日総会で採択・別紙参照）

この宣言が市民に広く知られ、一人一人の心のよりどころになるように、さまざまな機会に普及活動を行っている。

3 小金井子育て・子育て支援サイト「のびのび～の」の構築・管理運営事業

子育て中の市民に子育て・子育てに関する総合情報を提供し、安心して子育てができるように、また、子育て活動団体等の情報交換、相互交流を図るために、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのび～の」を構築し、管理運営している。

「年齢別情報」「知る・相談」「子育ての輪」の基本情報の他、インフォメーションコーナー、子育てマップ、総合電話帳、救急指定病院、子育て掲示板（投稿コーナー）、ツイッター、子育てコラム、市民レポートなどのコンテンツが満載である。

4 子育て活動団体に対する助成事業

平成23年度は4団体・7事業、平成24年度は5団体・8事業に助成した。助成した団体及び助成対象事業は、次のとおりである。

[平成23年度]

(1) 子育てサロン@SACHI

① 子育て講座 WEB コンテンツ企画・制作・管理事業

(2) 特定非営利活動法人 遊び・文化 NPO 小金井コラボ

① 子ども文化地域コーディネーター養成講座

② ガッコラボ

③ 遊びの出前屋さん

(3) 特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク

① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

(4) 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは

- ① 高卒認定資格取得学習会
- ② 相談支援事業

[平成24年度]

(1) 子育てサロン@SACHI

- ① 子育て講座 WEB コンテンツ管理事業

(2) ホームスタート小金井・発起人会

- ① ホームスタート・ホームビジター養成講座

(3) 特定非営利活動法人 遊び・文化 NPO 小金井コラボ

- ① 子ども文化地域コーディネーター養成講座
- ② ガッコラボ
- ③ 遊びの出前屋さん

(4) 特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク

- ① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

(5) 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは

- ① 高卒認定資格取得学習会
- ② 相談支援事業

5 講演会・学習会等事業

子育て・子育てに関する講演会・学習会等を開催した。

[平成23年度]

- ① 講演会「イマドキの子育て事情と支援のあり方」
- ② 学習会「子育て支援ネットワークの必要性を考える」

[平成24年度]

- ① 講演会「子どもの発達支援と地域連携」
- ② 学習会「小金井子育て・子育て支援サイト『のびのびーの!』の有効活用の仕方」
- ③ 「乳幼児応急救護」講習会
- ④ 講演会「子どもを産み育てるということ」

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会 参加団体 名簿

2013年3月25日 (44団体)

名称	代表者名	連絡担当者名
いかそう！子どもの権利条例の会		
親子おさんぽ広場		
きしゃぼっぼの会(不登校・ひきこもりを考える小金井の会)		
「教育って何だろう？」こがねい連絡会		
きらり		
くりのみ文庫		
子育てサロン@SACHI		
小金井コミュニティ講座の会		
小金井市学童保育連絡協議会		
小金井市学校五日制の会		
小金井市手をつなぐ親の会		
こがねい女性ネットワーク		
小金井青年会議所		
黄金ネットワーク(障がい児の親父の会)		
KOKOぷらねっと		
小金井ブックスタートボランティアの会こぶた		
小金井保育問題連絡協議会(保問協)		
子どもと未来を守る小金井会議		
三小おやじの会		
産前・産後のバランスボールエクササイズ&コンディショニングヨガ		
児童養護施設等退所者のアフターケア相談所 ゆずりは		
自主保育 ゆうゆう		

特定非営利活動法人 遊び文化NPO小金井こらぼ		
特定非営利活動法人 回帰船保育所		
特定非営利活動法人 ケアサポート湧		
特定非営利活動法人 現代座		
特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク		
特定非営利活動法人 小金井たすけあいワーカーズ ほっとわーく		
特定非営利活動法人 地域の寄り合い所 また明日		
特定非営利活動法人 東京学芸大学子ども未来研究 所		
特定非営利活動法人 パーソナルケアサービス小金井か いわい		
特定非営利活動法人 ひ・ろ・こらぼ		
ピアサロン周(あまね)		
ひまわりママ		
ビューティ ママ ラボ(B-T-M mama Lab)		
ホームスタート・小金井 発起人会		
森のようちえんクスクス		
わんぱく夏まつりの会		
駅前コスモ保育園		
子ども家庭支援センター(ゆりかご)		
東京学芸大学(地域連携)		
にじいろ保育園武蔵小金井		
朋愛幼稚園		
小金井市子ども家庭部 子育て支援課 小金井市子ども家庭部 保育課 小金井市子ども家庭部 児童青少年課 小金井市立児童館4館 小金井市立保育園5園 小金井市立ピノキオ幼児園 小金井市立学童保育所9所		

小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言

子どもを育てることは、未来へ命のバトンをつなげる営みです。そして、それは親だけが担うのではなく、社会全体が手をつなぎ子どもの育ちを支えていかなければなりません。

本来、喜びを実感できるはずの子育てが、地域社会のつながりが薄くなった現代は、孤独で辛いものになりがちです。また、大人が子どもに求めるものも多様になり、大人の価値観の違いによって子どもの環境は大きく違ってきています。高度経済成長を機に自然環境や社会環境の悪化も否めません。その結果、比較的環境に恵まれているこの小金井でも、子どもがのびのびした「子ども時代」を過ごすことが難しくなっています。

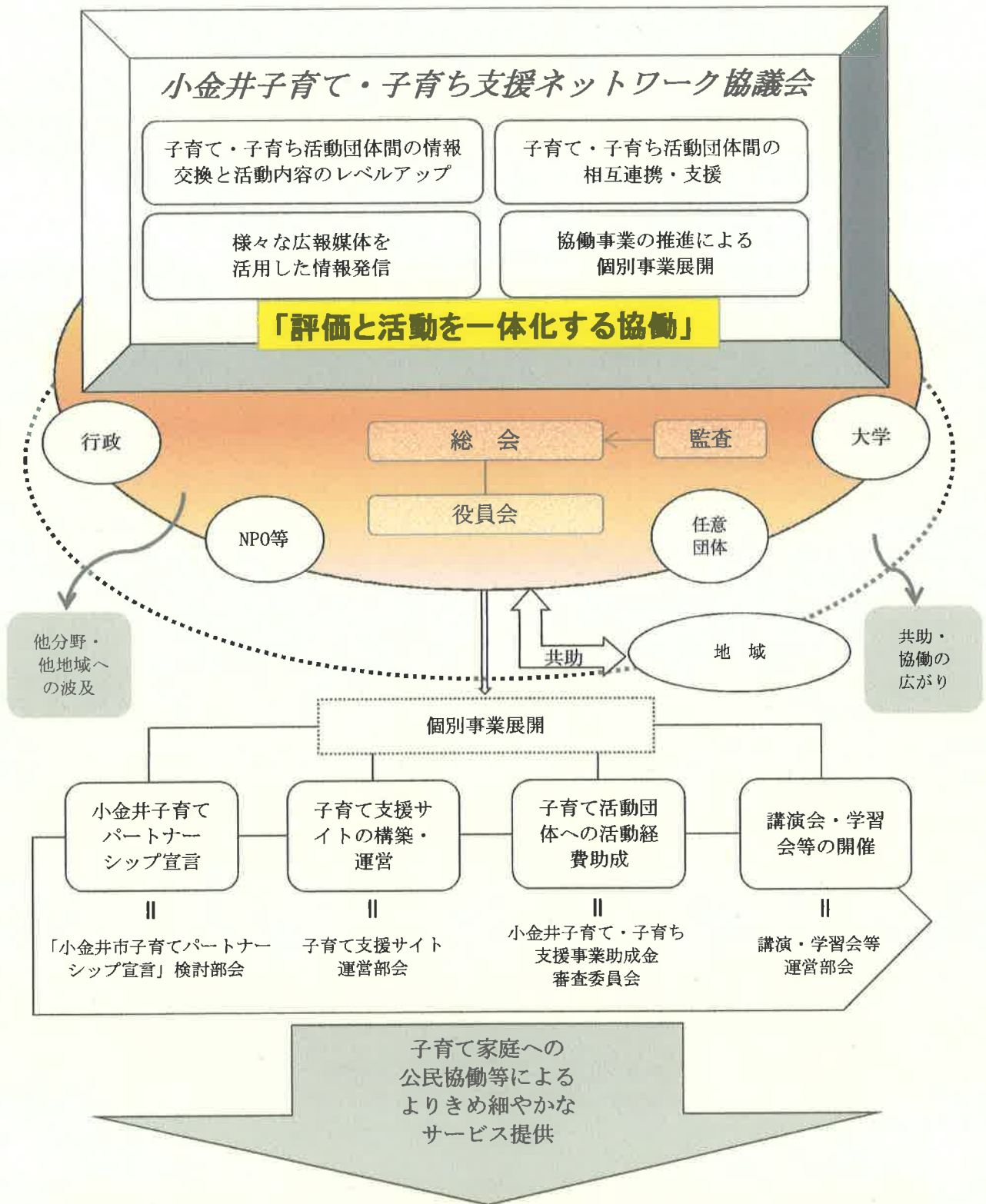
そのような中で、子どもが自分らしく生き、愛情に包まれて社会の大切な一員として育っていけるように、2009年（平成21年）に「小金井市子どもの権利に関する条例」が制定されました。

子どもは守られるだけの存在ではなく、自らが育つ力を持った存在です。私たちは、子どもを大人のパートナーと認め、子どもが温かなまなざしの中で豊かな子ども時代を過ごすことを望んでいます。子どもとともに大人も学び育っていける小金井をめざし、ここに「小金井子育て・子育てパートナーシップ」を宣言します。

- 1 私たちは、子どものあるがままの姿を尊重し、子どもが人として大切にされるまちをめざします。
- 1 私たちは、ともに手をつなぎ、子どもたちが安心して育っていけるまちをめざします。
- 1 私たちは、子どもの声を受けとめ、その意見が生かされるまちをめざします。
- 1 私たちは、厳しい環境の中においても、子どもも大人も自律して生きていけるまちをめざします。
- 1 私たちは、行政とともに子育て・子育て支援に積極的に取り組み、「小金井市子どもの権利に関する条例」の啓発と実行をめざします。



2012年（平成24年）7月3日

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会



地域の諸課題の解決に向けて 「脱 孤育て・孤育ち ～地域で子どもを育む取組～」

- ・親世代の孤立化と子育ての不安や迷いの解消
- ・子どもの居場所・大人との交流等の仕組み作り

Ⅲ マルチステークホルダーの概要（役割分担等）

新しい公共の場づくりのためのモデル事業は、多様な担い手が協働して自らの地域の課題解決に当たる仕組み（マルチステークホルダー・プロセス）の下、NPO等、地方公共団体及び企業等が協働する取組を試行する事業である。

協議会の新しい公共の場づくりのためのモデル事業におけるマルチステークホルダーの概要は、次のとおりである。

1 協議会の特徴

小金井市では、多くの子育て関係団体（小金井市・東京学芸大学・子育て関係施設・子育て活動団体）が、それぞれ使命感をもって子育て活動（事業）を行っている。しかし、各団体間の連携が必ずしも十分ではなかった。

そこで、これらの子育て関係団体が、子育て支援という共通目的のもとに協議会にゆるやかな形で集い、顔の見える関係になる中で協働して「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」を実施することにより、地域の子育て環境を整え、子育て力の向上を目指しているものである。（別図参照）

2 協議会の参加団体

(1) 参加団体数（平成25年3月28日現在）

44団体（別紙参照）

(2) 参加団体の分類

ア 子育て活動団体 36団体

[運営形態別内訳]

① 任意団体 27団体

② 特定非営利活動法人 9団体

イ 子育て関係施設 6団体

※ 保育園等

[運営形態別内訳]

① 社会福祉法人 2団体

② 株式会社 2団体

③ 特定非営利活動法人 1団体

④ 学校法人 1団体

ウ 子育て関係機関 1団体

東京学芸大学

エ 行政 1団体

小金井市

3 参加団体の役割

(1) 小金井市

- ア 協議会の活動や催し物を市報の一般紙面に掲載し、市民に広く広報した。
- イ 講演会等の会場（市施設）使用料を免除とする措置をした。
- ウ 小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」を母子バックに入れ広報した。
- エ 催し物のチラシ等を市の施設を通じて市民に配布した。
- オ 小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」への子育て支援施策等の掲載に協力（情報提供・チェック等）した。
- カ 協議会の副会長に子育て支援課長、監事に子ども家庭部長、理事に子ども家庭支援センター職員が就任し、他の参加団体と連携を密にした。
- キ 以上の他、様々な協力をした。

(2) 東京学芸大学

- ア 大学の人的資源（教員・学生）を活用して、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」を構築、運営に協力した。
- イ 大学の専門家が、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」の子育てコラムを執筆した。（ほぼ毎月更新）
- ウ 協議会の会長に教授が就任した。

(3) 子育て活動団体・子育て関係施設

- ア 役員及び部会員（パートナーシップ宣言部会・子育て支援サイト運営部会・講演会学習会等部会・リーフレット編集委員会）に就任し、協働して協議会の事業を実施した。
- イ 5団体は協議会の助成金を得て、新しい公共の場づくりのためのモデル事業を実施した。
- ウ 参加団体である NPO 法人東京学芸大こども未来研究所が、小金井市、東京学芸大学、子育て活動団体等の協力を得て小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」を構築・管理運営した。
- エ 小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」や催し物等を通じて、参加団体間の連携を深めた。

(4) 小金井市市民協働支援センター準備室

中間支援組織である小金井市市民協働支援センター準備室（小金井市が、社会福祉法人小金井市社会福祉協議会に委託して設置）事務局を担い、協議会事業全体を進行管理した。

IV 実施事業の詳細な内容

IV-I 協議会運営事業

1 事業の概要

小金井市、子育て関係機関（施設）、子育て活動団体で協議会を設立・運営し、協働して各種事業を実施した。協議会には、現在44団体が参加している。（別紙参照）

2 実施した主な内容

[平成23年度]

- (1) 市と協働して事業（案）等を作成（7・8月）
- (2) 子育て活動団体等（関係機関、関係施設を含む。）への広報活動・参加呼びかけ（7・8月・随時）
- (3) 事業計画（案）を作成（7・8月）
- (4) 予算（案）を作成（7・8月）
- (5) 規約等を作成（7～9月）
 - ア 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会規約
 - イ 小金井子育て・子育て支援活動事業助成金交付要綱
 - ウ 小金井子育て・子育て支援活動事業助成金審査委員会設置要綱
 - エ 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会事務処理規程
 - オ 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会会計処理規程
 - カ 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会公印規程
- (6) 準備会を開催
 - ア 第1回準備会（7月7日）
 - イ 第2回準備会（7月13日）
- (7) 準備委員会（役員候補者による実質的な役員会）を開催
 - ア 第1回準備委員会（7月29日）
 - イ 第2回準備委員会（8月1日）
- (8) 子育て活動団体からの助成金申請希望相談・助成金申請書受付等（7月）
- (9) 小金井子育て・子育て支援活動事業助成金審査委員会を開催（7月29日）
- (10) 新しい公共支援事業の東京都説明会・個別相談会等に参加
- (11) 設立総会を開催（8月2日）
- (12) 役員会を開催
 - ア 第1回役員会（8月8日）
 - イ 第2回役員会（10月27日）
 - ウ 第3回役員会（2月16日）
- (13) 東京都に対して、新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのため

のモデル事業の支援申請（８月１０日）

- (14) 事務局事務委託契約を締結
- (15) 東京都に対して助成金交付請求（１０月１４日）
- (16) 子育て支援サイト構築・管理運営業務委託契約を締結
- (17) 部会を設置

次のとおり３部会を設置し、活動した。

- ア 「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」部会
- イ 子育て支援サイト運営部会
- ウ 講演会・学習会等部会

- (18) 協議会参加団体のメーリングリストを整備し、迅速な情報交換。
- (19) 協議会のブログを作成
- (20) 東京都への各種書類提出に対応
- (21) 東京都の立入検査に対応
- (22) 情報の収集・発信
- (23) 会計管理
- (24) 協議会事業全体の進行管理

[平成24年度]

- (1) 平成24年度事務局事務委託契約を締結（４月１日）
- (2) 平成24年度子育て支援サイト管理運営業務委託契約を締結（４月１日）
- (2) 平成23年度実績報告書、事業収支決算書を作成し、東京都に提出（４月１０日）
- (3) 「東京都新しい公共支援事業における測定効果に関する状況調査」について、東京都に回答書を提出（４月23日）
- (4) 役員会を開催
 - ア 第1回役員会（４月25日）
 - イ 第2回役員会（６月15日）
 - ウ 第3回役員会（９月21日）
 - エ 第4回役員会（10月23日）
 - オ 第5回役員会（1月23日）
 - カ 第6回役員会（3月11日）
- (5) 規約の改正等
 - ア 事務処理規定を改正（４月27日施行）
 - イ 規約（改正案）を作成（第6回役員会で承認を受け、第1回臨時総会に付議。平成25年4月1日施行）
 - ウ 会計処理規程（改正案）を作成（第6回役員会で承認を受け、第1回臨時総会に報告。平成25年4月1日施行）

- エ 後援等基準（案）を作成（第6回役員会で承認を受け、第1回臨時総会に報告。平成25年4月1日施行）
- (6) 平成24年度実施計画及び収支予算書、実施スケジュールを作成し、東京都に対して平成24年度助成金交付請求（5月2日）
- (7) キッズカーニバルに参加（5月27日）
参加者約3000人。協議会が後援。
- (8) 平成23年度決算報告書、収支計算書、財産目録等を作成し、監事による監査を受けた。（6月8日）
- (9) 総会を開催
 - ア 総会（7月3日）
 - イ 第1回臨時総会（3月25日）
- (10) 広報・PR活動
 - ア 協議会のPR記事を市報に掲載（市報8月1日号）
 - イ 各種イベント等の際に、リーフレットを配布するなどして協議会の活動をPR（随時）
- (11) 交流会を開催
 - ア 第1回交流会（8月31日）
 - イ 第2回交流会（12月9日）
- (12) 参加団体メーリングリストを構築（10月）
- (13) メーリングリストを通じて、参加団体に協議会の活動や子育て関係のイベント等の情報提供。（随時）
- (14) 平成25年度事業計画（案）を作成
第4回役員会に諮り承認された。
- (15) 平成25年度予算（案）を作成
第4回役員会に諮り承認された。
- (16) 小金井市に平成25年度補助金交付要望書を提出（10月24日）
- (17) 東京都に、東京都新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業の状況報告書及び会計書類等チェックリストを提出（10月31日）
- (18) 東京都に、東京都新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業のアンケート調査回答票を提出（10月31日）
- (19) キリン福祉財団に平成25年度助成金を申し込み（11月8日）
- (20) 平成25年度予算（案）（修正案）を作成
第5回役員会に諮り承認された。
- (21) 協議会リーフレットを作成（12月・別紙参照）
 - ア 第1回リーフレット編集委員会（10月29日）
 - イ 第2回リーフレット編集委員会（11月6日）
 - ウ 第3回リーフレット編集委員会（11月18日）

エ 第4回リーフレット編集委員会（11月24日）

(22) 東京都新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業中間報告会（新宿会場）に出席（12月13日）

(23) 東京都新しい公共支援事業・新しい公共の場づくりのためのモデル事業中間報告会（国分寺会場）で発表

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の事業が、東京都（東京都新しい公共支援事業運営委員会）から「他団体の参考になる」との評価を受け、成果発表団体（多摩地区で6団体）に選ばれ次により発表した。

日時 1月8日（火）午前9時20分～午後0時30分

場所 国分寺労政会館

(24) 会計管理

(25) 協議会事業全体の進行管理

3 得られた成果

(1) 地域の子育て機能充実のための「子育て支援ネットワーク」の整備は、「のびゆく子どもプラン小金井（小金井市次世代育成支援後期計画）」にも掲げられている重要な施策の一つであるが、行政主導によるネットワークは発展していなかった。また、協議会ができるまでは、子育て・子育て支援活動団体はそれぞれ組織があることは知っていたという程度で、団体間のネットワーク化もされておらず、連携ができていなかった。

(2) 今回、協議会を設立し、地域の課題解決に協働して取り組むことができたことで、子育て家庭がつながっていけるネットワークと、広く地域の支援が届くシステムづくり、ひいては地域の子育て支援機能の充実を図ることに大きく踏み出すことができた。

IV-Ⅱ 「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」事業

1 事業の概要

小金井が、子育てしやすいまち、子どもらしい育ちのできるまち、子どもとともに大人も学び育っていけるまちになるように、協議会の名で「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」をした。(平成24年7月3日総会で採択・別紙参照)

この宣言が市民に広く知られ、一人一人の心のよりどころになるように、さまざまな機会に普及活動を行っている。協議会のリーフレット(別紙参照)でも大きなスペースをとって紹介している。また、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの」でも大きく紹介している。

2 実施した主な内容

[平成23年度]

- (1) 参加団体に呼びかけ、「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」部会員を募集した。(11月・12月)
- (2) 5名の部会員を中心に検討を開始した。(12月)
- (3) 部会を開催
 - ア 平成23年度第1回部会(12月21日)
 - イ 第2回部会(1月18日)
 - ウ 第3回部会(2月15日)
 - ※ ① 基本方針の基に、部会で意見を出し合い、持ち帰ってはメール等でも意見を出し合う方法で検討を進めた。
 - ② 第3回部会(2月15日)で一定の部会案がまとまった。
- (4) 第3回役員会に部会案を示し、意見交換した。(2月16日)
- (5) イベント等の際に部会案を示し、意見交換した。
- (6) 役員会や市民の意見を基に、部会案を修正した。(3月)

[平成24年度]

- (1) 平成24年度第1回役員会に修正した部会案を示し、意見交換した。(4月25日)
- (2) 平成24年度第1回部会(5月9日)
- (3) 協議会参加団体に宣言部会(案)を示し、意見を募った。(5月9日)
- (4) 東児童館で中高校生の意見を聴取。(5月23日)
- (5) 貫井南児童館で中高校生の意見を聴取。(5月25日)
- (6) 第2回部会(6月7日)
- (7) 第2回役員会に部会案を示し、意見交換。宣言(案)を確定。(6月15日)

- (8) 総会で「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」(別紙参照)を全会一致で採択。(7月3日)
- (9) 市民に広報・普及するため、イベント等様々な機会にPRしている。

3 得られた成果

- (1) 小金井市には現在、「男女平等都市宣言」や「ゆとり宣言」などがあるが、子育てに関する宣言はない。また、これらの宣言は、市長か議会の決議による宣言である。
- (2) 今回、民間団体を中心とした協議会の名で宣言したのは、小金井市では初めてのことであり、他市にもあまり例がないと思われる。このような宣言ができたのも、協議会があつてのことである。
- (3) 「市民が協働して発した宣言」ということで、子育て中の家庭をはじめ行政職員や子育て活動団体の「こころのよりどころ」として、長く親しまれるものと期待される。

小金井子育て・子育て支援 ネットワーク協議会とは…?

子育て支援や子どもに関わる活動をしている多くの市民団体と、子育て関係機関（東京学芸大学等）、関係施設、行政がゆるやかにつながり連携し、さまざまな事業を行なっていますと、2011年8月に設立された団体です（現在43団体が参加）。

「脱 孤育て～地域で子どもを育てる取組～」をミッションに、「東京都新しい公共の場づくりのためのモデル事業」の助成金（2011・2012年度）を得て、活動しています。

パートナーシップ宣言

小金井市には子どもの権利条例があります。

このまちが、子どもらしい育ちのできるまち・つながりのあるまちになるように、「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」をしました。

今後、この宣言が市民の皆さんに広く知られ、一人一人の心のよりどころとなるように働きかけていきます。

講演会・学習会の開催

「イノビキの子育て事情と支援のあり方」「子育て支援ネットワークの必要性を考える」「子どもの発達支援と地域連携」「小金井子育て・子育て支援サイト『のびのび～の！』の有効活用の仕方」を開催しました。2012年度は今後、「乳幼児応急救護講習会」「子どもを産むということ」を開催する予定です。



のびのび～の！
小金井子育て 子育て支援サイト
<http://nobinovino.net>

『のびのび～の！』は、子育て中のみなさんに子育て・子育てに関する総合情報を提供し、安心して子育てができることを目的に、また、子育て活動団体等の相互交流をはかるために、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が運営しています。

「年齢別情報」「知る・相談」「子育ての輪」の基本情報の他、インフォオメーションコーナー、子育てアップ、総合電話帳、救急指定病院、子育て掲示板(投稿コーナー)、子育てコラム、市民レポートなどのコンテンツが満載です。

- Facebook facebook.com/nobinovino
- Twitter twitter.com/nobinovino
- Mail nobinovino@gmail.com



子育て活動団体に助成

2011年度は4団体・7事業、2012年度は5団体・8事業に助成し、地域の子育て力の向上に効果を挙げています。

*参加団体を募集しています！

連絡先

小金井子育て・子育て支援
ネットワーク協議会事務局

小金井市中町 4-15-14 小金井市福祉会館2階
(小金井市市民協働支援センター準備室内)

TEL&FAX : 042-385-7767

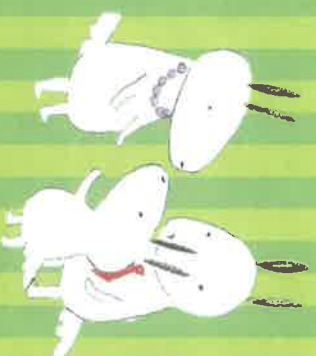
E-mail : kyodo@ion.ocn.ne.jp

(2012年12月発行)

小金井子育て・子育て支援
ネットワーク協議会

脱 孤育て・孤育て

～地域で子どもを育て～



「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」をしました！

Open!



のびのび～の！
小金井子育て 子育て支援サイト

小金井子育て・子育て パートナーシップ宣言

子どもを育てることは、未来へ命のバトンをつなげる営みです。そして、それは親だけが担うのではなく、社会全体が手をつなぎ子どもの育ちを支えていかなければなりません。

本来、喜びを実感できるはずの子育てですが、地域社会のつながりが薄くなった現代は、孤独で辛いものになりがちです。また、大人が子どもに求めるものも多様になり、大人の価値観の違いによって子どもたちの環境は大きく違ってきています。高度経済成長を機に自然環境や社会環境の悪化も否めません。その結果、比較的環境に恵まれているこの小金井でも、子どもがのびのびした「子ども時代」を過ごすことが難しくなっています。

そのような中で、子どもが自分らしく生き、愛情に包まれて社会の大切な一員として育てていけるように、2009年（平成21年）に「小金井市子どもの権利に関する条例」が制定されました。

子どもは守られるだけの存在ではなく、自らが育つ力を持った存在です。私たちは、子どもを大人のパートナーと認め、子どもが温かなまなざしの中で豊かな子ども時代を過ごすことを望んでいます。子どもとともに大人も学び育てていける小金井をめざし、ここに「小金井子育て・子育てパートナーシップ」を宣言します。

私たちは、子どものある
がまの姿を尊重し、子
どもが人として大切にさ
れるまちをめざします。

私たちは、ともに手をつ
なぎ、子どもたちが安心
して育っていただけるまちを
めざします。

私たちは、子どもの声を受
けとめ、その意見が生かさ
れるまちをめざします。

私たちは、厳しい環境の中
においても、子どもも大人
も自律して生きていけるま
ちをめざします。

私たちは、行政とともに子
育て・子育て支援に積極的
に取り組み、「小金井市子ど
もの権利に関する条例」の
啓発と実行をめざします。

2012年（平成24年）7月3日

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会

IV-III 小金井子育て・子育て支援サイト 「のびのびの！」の構築・管理運営事業

1 事業の概要

子育て中の市民に子育て・子育てに関する総合情報を提供し、安心して子育てができるように、また、子育て活動団体等の情報交換、相互交流を図るために、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびの！」を構築し、管理運営している。

「年齢別情報」「知る・相談」「子育ての輪」の基本情報の他、インフォメーションコーナー、子育てマップ、総合電話帳、救急指定病院、子育て掲示板（投稿コーナー）、ツイッター、子育てコラム、市民レポートなどのコンテンツが満載である。（別紙「小金井子育て・子育て支援サイト『のびのびの！』の特徴」参照）

2 実施した主な内容

[平成23年度]

- (1) 子育て支援サイト運営部会員、小金井市子育て支援課長、受託者、事務局でサイト構築の基本方針、進め方、日程、愛称、シンボルマーク、コンテンツ内容などの検討を重ね、その意見に従い構築作業が進められてきた。
- (2) その結果、3月末で小金井子育て・子育て支援サイト（愛称「のびのびの！」）を構築し・4月から供用を開始した。
- (3) このサイトには、次のページも盛り込まれている。
 - ア 年齢別にアプローチできる、主に小金井市内のサービスを掲示したページ
 - イ 具体的な事例やキーワードをもとにして、主に小金井市内のサービスにアクセスできるページ
 - ウ 協議会に参加している団体、及び本サイトへの掲載を希望している団体に関する情報を掲載したページ
 - エ 各種団体が行うイベントを掲載できるカレンダーの設置
 - オ 各種団体や施設等を表示できる地図の設置
 - カ ツイッターを用いた情報発信窓口
 - キ オンラインSNSフェースブックと連動した閲覧者参加機能
 - ク 各種団体の広報エリアの設置
- (4) このサイトのシンボルマーク、デザイン、レイアウトについては、東京学芸大学美術担当教員によるもので、見やすく親しみやすいものになっている。

[平成24年度]

小金井子育て・子育て支援サイト「のびのび〜の」の構築は、平成23年度で終了した。

平成24年度の管理運営事業の中では様々な追加・改良を行い、より親しみやすい、利用しやすいサイトになった。

主な経過等は、次のとおりである。

- (1) 子育て支援サイト管理運営委託契約を締結。
- (2) 子育て支援サイト運営部会（以下「サイト部会」という。）の意見等を基に、追加・改良を加え、内容の充実を図った。主な点は次のとおりである。
 - ア ツイッターの設置。
 - イ サイトの利用者全体で意見交換が可能な掲示板「子育て掲示板」（投稿コーナー）の設置。
 - ウ 子育て関係コラム「のびのびっコラム」の掲載開始。
 - エ 市民レポーター（3名）による「市民レポート」の掲載開始。
- (3) 構築したサイトを運営するため、スタッフを増強した。
- (4) サイトの広報のため、プロモーションカード（名刺サイズ二つ折り・別紙参照）を作成し、イベント等の際に配布している。
- (5) サイトの広報のため、インフォメーションカード（別紙参照）を作成し、イベント等の際に配布している。
- (6) キッズカーニバルで「のびのび〜の」の実演及びPRを兼ねて説明会を行った。（5月27日）
- (7) 掲載コンテンツを作成するため、市民レポーターを採用した。
- (8) 学習会「子育て支援サイト『のびのび〜の』の有効活用の仕方」を開催した。（12月9日）

[子育て支援サイト部会等]

- (1) 平成24年度第1回サイト部会（4月12日）
- (2) 小金井市（子育て支援課）、事務局、受託者との打ち合わせ（4月25日）
- (3) 第2回サイト部会（5月2日）
- (4) 第3回サイト部会（6月6日）
- (5) 第4回サイト部会（6月18日）
- (6) 第5回サイト部会（8月1日）
- (7) 第6回サイト部会（8月7日）
- (8) 第7回サイト部会（8月30日）
- (9) 第8回子育て支援サイト運営会議（9月20日）
※ 第8回から「運営会議」に改称。
- (10) 第9回運営会議（10月22日）
- (11) 第10回運営会議（1月25日）
- (12) 第11回運営会議（3月21日）

[市民レポーター会議]

(1) 平成24年度第1回市民レポーター会議（8月22日）

※ これを受けて取材、「市民レポート」への掲載を開始。

(2) 第2回市民レポーター会議（9月5日）

(3) 第3回市民レポーター会議（10月5日）

(4) 第4回市民レポーター会議（11月9日）

(5) 第5回市民レポーター会議（11月30日）

(6) 第6回市民レポーター会議（2月20日）

3 得られた成果

(1) 市民に子育て・子育てに関する新鮮な情報を提供することにより、安心して子育てをすることができる。

(2) 行政による子育て支援施策等を在宅で知ることができる。また、紙ベースとは異なり最新の情報を知ることができる。

(3) 子育て活動団体のイベントや活動を容易に知ることができる。

(4) ツイッターや掲示板の双方向機能を活用し、子育ての悩みなどを吐露することで孤独感を解消し、「脱 孤育て・孤育て」につなげることができる。

小金井子育て子育て支援サイト「のびのび〜の」の特徴

<http://nobinovino.net>

- 1 親しみやすいデザインとしている。内容もわかりやすく、親しみやすいものになっている。
- 2 大きく分けて、①「年齢別情報」、②「知る・相談」、③「子育ての輪」から構成されており、①「年齢別情報」では、行政施策等を利用しやすい工夫をし、②「知る・相談」では、行政と民間の情報を掲載してさまざまな情報を利用しやすくし、③「子育ての輪」では、協議会参加団体や、その他の有効と思われるサイトにリンクをはって、ネットワークを広げていけるような工夫をしている。
- 3 「インフォメーションコーナー」では、最新のニュースを掲載し、ブログへも連動している。
- 4 トップページでは、情報の重要度で分けて掲載している。
- 5 「イベントカレンダー」を設置し、各種イベントをカレンダー方式で掲載し、見やすくなっている。
- 6 「子育てマップ」では、子育て関係の施設等を小金井市の地図に落とし、利用する場合の参考にしている。
- 7 「総合電話帳」「救急指定病院」を設置し、電話帳としても便利に利用できる。
- 8 「ツイッター」を設置し、最新ニュースを発信して、フォロアーを増やし、サイトへのアクセス数も増やすようにしている。
- 9 「子育て掲示板」(投稿コーナー)を設置し、一方通行のサイトではなく、閲覧者からもサイトに参加できる窓口をつくっている。また、子育て中の市民が、気軽に悩みなども書き込めるような窓口にもなっている。
- 10 「のびのびっコラム」では、学芸大学の専門家の先生が執筆した子育て・子育てに関連するコラムを掲載している。(月1回程度更新) これまでに掲載したコラムは、次のとおりである。
 - Vol.1 はじまりに寄せて：「子どもを理解する」こと
 - Vol.2 夏を元気に過ごすには？
 - Vol.3 子どもとの関わり力を高めよう～イクメンブームの中で
 - Vol.4 「幼稚園」って、どんなところ？
 - Vol.5 幼児期の発達と「運動遊び」
 - Vol.6 子どもと本のつながり

- Vol. 7 乳幼児のぐずぐずとママの気持ち
- Vol. 8 乳幼児の冬の過ごし方～楽しく♪感染予防～
- Vol. 9 こどもと一緒に歌いませんか?
- Vol. 1 0 集団遊びとこども
- Vol. 1 1 発達障害について (近日アップ予定)
- Vol. 1 2 子育て中 (近日アップ予定)

1 1 「のびのび～の！市民レポート」では、市内のイベントや情報を、市民レポーター（3名）が臨場感あふれる写真とともに報告している。これまで、掲載した「市民レポート」は次のとおりである。

- Vol. 1 2 0 1 2 わんぱく夏まつり
- Vol. 2 「あいのでさん」第2回ワールドミュージックフェスティバル
- Vol. 3 アフターケア相談所「ゆずりは」サロン
- Vol. 4 木工作 with 遊パーク [前半]
- Vol. 5 木工作 with 遊パーク [後半]
- Vol. 6 パパママ支援講演会
- Vol. 7 こどもサポーター養成講座
- Vol. 8 武蔵野はらっぱ祭り 2 0 th
- Vol. 9 「ひまわりママ」2 0 1 2 年度公開勉強会
- Vol. 1 0 のびのび～の！使い方講座&交流会
- Vol. 1 1 新しい公共の場づくりのためのモデル事業中間報告会
- Vol. 1 2 結城座「杜子春+茶話会」[前半]
- Vol. 1 3 結城座「杜子春+茶話会」[後半]
- Vol. 1 4 第3回こがねい市民活動まつり
- Vol. 1 5 パネルトーク「小金井の子どもを取り巻く環境について」(近日アップ予定)
- Vol. 1 6 「乳幼児応急救護講習会」(近日アップ予定)
- Vol. 1 7 講演会「子どもを産み育てるということ」(近日アップ予定)

IV—IV 子育て活動団体に対する活動経費の助成事業

1 事業の概要

子育て活動団体に対して活動経費を助成した。平成23年度は4団体・7事業、平成24年度は5団体・8事業に助成した。

2 助成事業の内容（各事業の詳細については、別紙実績報告書参照）

[平成23年度]

(1) 子育てサロン@SACHI

① 子育て講座 WEB コンテンツ企画・制作・管理事業

(2) 特定非営利活動法人 遊び・文化 NPO 小金井コラボ

① 子ども文化地域コーディネーター養成講座

② ガッコラボ

③ 遊びの出前屋さん

(3) 特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク

① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

(4) 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは

① 高卒認定資格取得学習会

② 相談支援事業

[平成24年度]

(1) 子育てサロン@SACHI

① 子育て講座 WEB コンテンツ管理事業

(2) ホームスタート小金井・発起人会

① ホームスタート・ホームビジター養成講座

(3) 特定非営利活動法人 遊び・文化 NPO 小金井コラボ

① 子ども文化地域コーディネーター養成講座

② ガッコラボ

③ 遊びの出前屋さん

(4) 特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク

① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

(5) 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは

① 高卒認定資格取得学習会

② 相談支援事業

3 得られた成果（各事業の得られた成果について別紙実績報告書参照）

平成23年度助成事業実績報告書（要約版）

[子育てサロン@SACHI]

① 子育て講座WEBコンテンツ企画・制作・管理事業

1 事業の実施内容

- (1) 講座公開収録の画像にフリップを入れる作業
- (2) CM用マンガでムービー作成
- (3) 掲載リソースの作成
- (4) レンタルサーバー契約・ドメイン取得
- (5) 掲載作業（テストページ）
- (6) ヘッドコピーの画像作成

2 得られた成果

- (1) 公開講座の参加者の感想
 - ・すぐ役に立った。
 - ・実際に試してみたら、家族の関係が良くなった。
- (2) 作成にかかわった人の感想
 - ・小金井だけでしか聞けなかった講座が、全国で聴けるのは良いこと。
 - ・自分は子どもがいないが、この講座を受講したら悩みがあっても解決力がつくと思った。
- (3) CM用マンガムービーについて
 - ・短い時間で、どんな講座なのか理解が進む。

3 今後期待できる効果

- (1) 受講者が、全国から募集できる。
- (2) 講座の質をアップするためのデータがとれる。
- (3) 受講者のニーズの把握が正確になる。
- (4) 結果として質の良い活動ができるようになる。
- (5) 平成24年度に法人化する予定であるが、その場合、次の世代の可能性が模索・育成ができ、持続力のある団体になれる。

[特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ]

① 子ども文化地域コーディネーター養成講座

1 事業の実施内容

[第1回]

- (1) 実施日 平成23年12月17日(土)
- (2) 会場 アートスポット シャトー2F
- (3) 参加者 13名
- (4) 内容
 - 第1段階 講演会「学校連携事業の意義・学校の授業における実施者と児童との関わり方・実施者のモチベーションの保ち方等について」
講師 森本真也子(NPO 法人子ども劇場東京都協議会専務理事)
 - 第2段階 意見交換会

[第2回]

- (1) 実施日 平成24年1月29日(日)
- (2) 会場 商工会館
- (3) 参加者 12名
- (4) 内容
 - 講演会 「子どもの精神発達のうえで地域での文化体験がもたらすものとは？」
講師 賀陽濟(精神科医・田無神社宮司)
その後意見交換会

[第3回]

- (1) 実施日 平成24年2月19日(日)
- (2) 会場 前原暫定集会施設
- (3) 参加者 10名
- (4) 内容
 - 講演会 「市民・行政・の協働で作る子育て・子育て環境小金井版」～子育て・子育て支援ネットワークに期待する～
講師 中川幾郎(帝塚山大学大学院教授・子ども文化地域コーディネーター協会理事長)

2 得られた成果

- (1) 講師として、子どもの文化事業実践者、精神科医である神職者、また文化政策専門家という様々な分野で活躍中の方々に講演していただいたので、子どもを取り巻く環境や将来展望について多角的な見方ができ、今後、この事業を進める上で、多様な観点で考察する必要性を知る好機となった。
- (2) 参加者が一般市民というより、地域で実際に子ども文化関連の事業を実

施している人が多かったため、自分の実践に引き付けた問題提起により問題解決の一助になった。

- (3) 今回は1年目の講座であったが、来年度以降、講座の持ち方やテーマをより充実させ、発展させていくことで、小金井こらぼが目指していることを理論的に整理する好機となり、展望がもてた。

② ガッコラゴ

1 事業の実施内容

- (1) 実施日 平成23年10月12日(水)・13日(木)
(2) 会場 市立本町小学校
(3) 参加者 86名
(4) 内容

5年生3クラスを対象に、3人のゲストティチャーによる図工の特別授業を実施した。ゲストティチャーは東京学芸大学大学院の学生で、それぞれが普段の作品制作を活かした3つのプログラムを行った。子どもたちはそれら3つのプログラムのデザイン、版画、金工の中から好きなものを選択し、授業を受けた。

2 得られた成果

- (1) 学生ゲストティチャーにとって、大学で研究した内容を活かせる機会であり、今後の作品制作と教育、今後の励みになるものと思われる。
(2) 今回の授業は、現場の先生にとって研究授業として取り組んでおり、先進的な教育実践である。
(3) 子どもたちにとって、学生からの言葉がけなどによる第三者からの評価は、感性を拡充させる良い機会になっていると思われる。

3者(学生・教師・子ども)が関わることによって、以上の3点が達成できた。

③ 遊びの出前屋さん

1 事業の実施内容

[第1回]

- (1) 実施日 平成24年2月10日(金)
(2) 会場 せいしん幼稚園
(3) 参加者 62名
(4) 内容

市内在住の声楽家・大久保藍乃さんによる「歌のおねえさん」を実施した。実施時間中に約15曲の童謡動きや身近な道具を用いながら、音楽遊びを披露した。

[第2回]

- (1) 実施日 平成24年3月27日(火)
- (2) 会場 ひなぎく保育園
- (3) 参加者 66名
- (4) 内容

市内在住の声楽家・大久保藍乃さんによる「歌のおねえさん」を実施した。実施時間中に約15曲の童謡動きや身近な道具を用いながら、音楽遊びを披露した。

2 得られた成果

- (1) 子どもたちにとって、声楽家による本格的な歌声を目の前で聞くことのできる体験は、とても貴重なことである。さらに、子どもたちが普段歌っている曲などもプログラムに盛り込むことによって、親近感を持ち積極的に参加するきっかけとなっていた。
- (2) 打ち合わせを重ねる中で、今後もいろいろな形で学生やプロの方々とかかわっていきたいという意欲的な職員との出会いも、次回以降につながっていく活動であると実感している。

[特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク]

① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

1 事業の実施内容

第1回 地域の中にプレーパークを作ろう「羽根木プレーパークに遊びに行こう」

- (1) 実施日 平成23年12月4日(日)
- (2) 会場 羽根木プレーパーク(世田谷区)
- (3) 参加者 大人7名・子ども8名 計15名
- (4) 内容

世田谷区にある日本で初めての常設のプレーパーク羽根木公園に出かけ、常設のプレーパークのよさを体験した。

第2回 地域の中にプレーパークを作ろう「プレーパークってなあに」

- (1) 実施日 平成24年1月14日(土)

- (2) 会 場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 大人22名・子ども10名 計32名
- (4) 内 容

嶋村仁志さん（NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会理事・プレーリーダー歴15年）を講師に、「プレーパークってなあに」と題して講演していただき、グループトークを行った。

第3回 地域の中にプレーパークを作ろう「遊びに関わる大人の役割」

- (1) 実施日 平成24年2月18日（土）
- (2) 会 場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 大人10名・子ども6名 計16名
- (4) 内 容

渡部靖成さん（NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会・プレーリーダー歴8年）を講師に、「遊びに関わる大人の役割」と題して講演していただき、子どもの遊びや遊び場で起こりうるエピソードをもとに、グループに分かれて話し合った。

第4回 地域の中にプレーパークを作ろう「野外調理体験 遊ぼうパン」

- (1) 実施日 平成24年3月24日（土）
- (2) 会 場 武蔵野公園くじら山
- (3) 参加者 大人12名・子ども14名 計28名
- (4) 内 容

講座を経て、パンづくりをしながら実際に遊び体験をしてもらい、遊びの楽しさを実感してもらった。

2 得られた成果

- (1) 第1回
常設のプレーパークのよさを体験するとともに、地域の方にプレーパークを認知してもらうための工夫や長く続けていく工夫などを聞くことができた。
- (2) 第2回
プレーパークが地域にあることの意味を改めて問い直せた。
- (3) 第3回
講師の用意してくれた題材はとても身近であり、考えさせられる問題だった。どの問題にも最初の感想から、子どもへの対処法、そして子どもの育ちの問題、大人の問題と意見に広がりが見られ、正解はないものの十分に満足できる内容となった。
- (4) 第4回

親にとってはきっと久しぶりの、子どもにとっては成長上大切な、失敗や試行錯誤を経ての成功体験が得られた。

[社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは]

① 高卒認定資格取得学習会

1 事業の実施内容

- (1) 期 間 平成23年10月～平成24年3月
- (2) 実施日 毎週木曜日 午後5時～8時 計26回実施
- (3) 会 場 アフターケア相談所ゆずりは
- (4) 参加者 104名（1回につき4名が参加）
- (5) 内 容

社会的養護施設を退所し中卒・高校中退の低学歴な若者を対象に、高卒認定資格取得の無料学習会を実施した。（講師は国立大学の現役学生）

2 得られた成果

- (1) 学習会の参加者から1名が、高卒認定を取得した。もう1名は、5科目の教科合格。
- (2) 参加者の学習意欲は、学習会ごとに増していると感じる。
- (3) 見学者も25名に上り、取り組みに注目を集めていると感じる。

② 相談支援事業

1 事業の実施内容

- (1) 期 間 平成23年10月～平成24年3月
- (2) 実施日 隔週月曜日・隔週土曜日 午前11時～午後4時 計28回実施
- (3) 会 場 アフターケア相談所ゆずりは
- (4) 利用者 56名（1回につき2名）
- (5) 内 容

ア 地域で子育てに悩む母親への無料カウンセリング、専門家による学習会

イ 不適切な養育環境で助けを必要としている子どもへの、無料の相談支援

2 得られた成果

子育てに悩む多くの母親から相談があり、相談支援とともに、病院への同

行や就労支援等も行った。精神疾患を抱えた方がなかなか病院が続かなかったが、同行支援をすることで定期的に病院につながった。

平成24年度助成事業実績報告書（要約版）

[子育てサロン@SACHI]

① 子育て講座WEBコンテンツ管理事業

1 事業の実施内容

- (1) 試運転で、モニター調査
- (2) ホームページ等とのリンク
- (3) 受講生募集
- (4) 月一回利用会員用のログインIDとパスワードの発行を更新し会員サービスの向上を図る
- (5) セキュリティの管理と保全

2 得られた成果

- (1) 講座受講者の感想
子どもを不必要に叱ってばかりいたが、焦る気持ちが無くなったので、ゆったりとした気持ちで、子どもに向き合えるようになった。
- (2) 受講者とのやり取りから、新たなニーズの掘り下げができた。

3 今後期待できる効果

- (1) 団体の他の事業との連携
 - ・ニーズを拾うことで、新たな事業の醸成。
 - ・ニーズを拾うことで、他の事業に結ぶ。
- (2) 他の団体との連携
 - ・(1)と同様に他の団体とも事業連携ができる。
- (3) 子育てサロン@SACHIの「子育て広場」をバーチャル上に作成する企画が予定されている。
 - ・子育て広場の活動会員の「場」が広がる。
 - ・子育て広場の活動会員の自己実現の機会が増える。
- (4) インストラクターシステムを構築
 - ・インストラクター制度をつくることで、会員の活動の「場」と機会が増える。
 - ・アクティブ会員が増えることで、地域活性につなげる。

[ホームスタート・小金井 発起人会]

① ホームスタートビジター養成講座

1 事業の実施内容

- (1) 実施カリキュラムは別表のとおり
- (2) 受講者 4名
- (3) 終了者（ホームビジター登録者） 4名

2 得られた成果

- (1) 受講者の感想
 - ・子どもの安心のために、母親の心の安定が大切なことを知りました。
 - ・母親の心に寄り添うビジターの役割の大切さを理解しました。
 - ・演習を通して、自分の考えを言葉にすることで、自分では気がつかなかった「感情」に気づけました。
 - ・相手の良い面にフォーカスして勇気づけることで自信がつくことを、実習を通して実感できました。
- (2) 社会福祉士・双子を育てた経験・障がいを持つ子どもを育てた経験等、特異なケースに強みを持つビジターが誕生したことは、意義深い。
- (3) 子ども家庭における「傾聴」のあり方は、家事や育児をともにやりながら、フレンドリーな雰囲気の中で行われることが望ましいが、その実践をホームスタートの「傾聴」に学ぶという公開講座の開催につながった。

3 今後期待できる効果

- (1) ホームビジターが子育て広場等で、実習を兼ねた見守りボランティアの実践をすることができる。
- (2) 地域の子育て支援につなげることができる。
- (3) 母親の地域参加を促すことができる。
- (4) 保健師が専門家として対応するほどではないが、「気になる家庭」をホームスタートにつなげることで、マルトリートメントや虐待を水際で予防することができる。
- (5) 民生児童委員の見守り訪問と連携することで、地域のセーフティーネットの網の目を細くすることができる。
- (6) 母親の支援ニーズの掘り起こしができるので、行政にフィードバックできる。

[特定非営利活動法人 遊び・文化 NPO 小金井こらぼ]

① 子ども文化地域コーディネーター養成講座

1 事業の実施内容

[第1回]

(1) 実施日 平成25年1月19日(土)

(2) 会場 前原暫定集会施設

(3) 参加者 32名

(4) 内容

「子どもも大人も一緒に『楽しい!』を体験しよう!!

大道芸人による「飛び出す3D紙芝居」と「南京玉すだれ」の公演・ワークショップ。

〈大道芸人〉梅田和佐：東京都公認ヘブンアーティスト。「飛び出す3D紙芝居」考案。世界各国で公演中。

〈コーディネーター〉森本真也子(NPO法人子ども文化コーディネーター協会専務理事)

[第2回]

(1) 実施日 平成25年2月9日(土)

(2) 会場 市民会館(萌え木ホール)

(3) 参加者 12名

(4) 内容

「小金井のまちで『楽しい!』を見つけよう!!」

参加者それぞれが、日頃自分たちが所属する団体を運営する上での問題点や、疑問に思っていることを出し合い、団体間で問題の共有化を図った。また、助言者に問題解決の方法や今後の運営についてアドバイスをもらった。

〈助言者〉森本真也子(NPO法人子ども文化コーディネーター協会専務理事)

[第3回]

(1) 実施日 平成25年3月2日(土)

(2) 会場 前原暫定集会施設

(3) 参加者 18名

(4) 内容

「小金井のまちで『楽しい!』を作り出す」パネルディスカッション～小金井で育つ・育てる～

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の参加団体の現状についての発表を受けて、現状確認し、協議会における各団体の役割と展望、今後の方向性について課題を出しあった。

〈コーディネーター〉森本真也子(NPO法人子ども文化コーディネーター協会専務理事)

2 得られた成果

- (1) 協議会が発足して2年近くが経過したところで、各団体の役割や子育て環境を再構築することの意義を再確認した。
- (2) どの団体も事業を実施することに追われ、事業実施後の検証が不十分のまま過ぎているが、この講座に参加したことで問題意識を持ち、各団体が今後、自分たちの事業を発展させ、将来に生かす方向性を模索することができ、今後につながるよい機会となった。
- (3) 今後も協議会のメンバーとして活動を発展的に継続し、小金井市における子育て環境を構築する上での課題を共有するためのよい機会となった。

② ガッコラボ

1 事業の実施内容

[第1回]

- (1) 実施日 平成24年11月10日(土)
- (2) 会場 中野区立西中野小学校
- (3) 参加者 全児童 254名
- (4) 内容

コンセプト	思いを広げてつくろう、感じて作って楽しんで、カラフルワールドへようこそ	
学年	テーマ	内容
1年生	うきうきファッションショー	カラービニール袋を用いたファッションショー
2年生	ころころくるくる	スタンプする素材を使って、紙に絵具でスタンプする
3年生	だんだん段ボール	段ボールで好きなものを作る
4年生	つなげてもこもこのくに	傘袋やビニール袋を繋げながら、自由な造形活動をする
5年生	カラフル! ペタワールド	お花紙をつかった造形をステンドグラスのように窓に貼りつける
6年生	シートで変身	大小の養生シートを用いて遊具に巻き付け、造形遊びをする
しらさぎ学級(特別支援学級)	だいすきしんぶんプール	新聞紙をちぎったり、丸めたり、集めたりしながら、身体全体を使った造形遊びを楽しむ

[第2回]

- (1) 実施日 平成24年11月17日(土)

- (2) 会 場 市立本町小学校
 (3) 参加者 2学年～5学年 295名
 (4) 内 容

コ	ンセプト		造形あそびを通して、兄弟学級で協力し合う	
学 年	テ	マ		内 容
2・4学年	大好き！新聞プール		身近で加工しやすい素材である新聞紙をちぎったり、丸めたり、集めたりしながら、身体全体を使った造形あそびを楽しむ	
3・5学年	つなげてもこもこ、もこもこのくに		膨らませた傘袋（ビニール）を自由に繫げたり、傘袋になにかを描いたり、すずらんテープを繫いだりして表現することを楽しむ	

2 得られた成果

- (1) ガッコラボは、遊び・文化 NPO 小金井こらぼが平成21年から小金井アートフルアクション！の学校連携事業の一つとして取り組んできた、学生による造形学習プログラムである。平成23年度から協議会の助成金を得ることにより、多くの学生に参加してもらいやすくなり、また材料費を負担することで造形遊びの学習の幅が広がり、学校も受け入れやすくなった。
- (2) 2年間で延80名以上の学生がこのプログラムに関わり、教育実習以外で学校という場で子どもたちに出会うことができ、指導の実践を体験できた。
- (3) 学校としても、図工展覧会での造形遊び授業の取り組みをより充実させることができたと思われる。
- (4) 学生と学校をつなぐコーディネーターを NPO が務めたことにより、組織としても活動に発展できた。

③ 遊びの出前屋さん

1 事業の実施内容

[第1回]

- (1) 実施日 平成24年7月29日（土）
 (2) 会 場 ひなぎく保育園
 (3) 参加者 第1回卒園児を中心とした小学生15名
 (4) 内 容 「ペットボトルでステンドグラスを作ろう」

ペットボトルに黒テープを貼り、マジックで色や模様をつける。食紅で作った色水を入れる。光に当ててみる。

従来、保育園の先生による夏休みの特別講習を実施していたところを、学生のアイデアで夏休みの工作教室を行った。

[第2回]

(1) 実施日 平成25年1月25日(金)

(2) 会場 本町児童館

(3) 参加者 2・3歳児幼児クラブ 親子28組 56名

(4) 内容

歌のお姉さんと体操のお兄さんによるリズム体操遊び。

普段幼児グループで遊びに来ている親子を対象に、お姉さんの歌、伴奏に合わせてお兄さんと一緒に体を動かして遊んだ。

2 得られた成果

[第1回]

(1) 子どもたちが学生と一緒に創ることで、より楽しく参加している様子が見られた。

(2) 学生にとっても、準備の重要性、当日の進行の仕方、子どもの反応などを体感でき、貴重な体験となった。

[第2回]

(1) 子どもだけでなくお母さんと一緒に遊ぶことで、子どもたちのより楽しい時間を作ることができた。普段の児童館にプロの歌声が響き、参加した保護者もとても喜んでいた。

(2) 親子での体操遊びのきっかけにもなった。児童館の職員にも参考になるプログラムであった。

[特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク]

① 梶野公園プレーパークに関わる人材育成事業

1 事業の実施内容

※ 回数は、平成23年度からの連番となっている。

第5回 地域の中にプレーパークを作ろう「町田たぬき山プレーパークに遊びに行こう」

〈コーディネーター〉 邦永洋子 (NPO 法人こがねい子ども遊パーク)

(1) 実施日 平成24年4月14日(土)

(2) 会 場 町田たぬき山プレーパーク (町田市)

(3) 参加者 大人9名・子ども8名 計17名

(4) 内 容

町田たぬき山プレーパークに出かけ、常設のプレーパークのよさを体験した。

第6回 地域の中にプレーパークを作ろう「ロープワーク講座 ブランコを作ろう」

〈講師〉五味正幸 (日野プレーパーク・東村山プレーパーク世話人)

(1) 実施日 平成24年5月19日 (土)

(2) 会 場 梶野公園

(3) 参加者 大人11名・子ども7名 計18名

(4) 内 容

ロープを扱う上で知っておきたい知識を学び、実際にロープを使ってブランコをつるしてみた。

第7回 地域の中にプレーパークを作ろう「危機管理安全講習会」

〈講師〉嶋村仁志 (NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会理事・プレーリーダー歴15年)

(1) 実施日 平成24年6月9日 (土)

(2) 会 場 小金井市婦人会館

(3) 参加者 15名

(4) 内 容

危機管理と危険管理の違い、遊び場では危機管理 (起こってしまったことにどう対応するか) も大事だが、起こる前に大人が想定して取り除くハザードと、子どもの成長に必要なリスクという二つの危険を大人が考えることが大事だと、危機管理のあり方、判断のよりどころを話していただいた。

第8回 地域の中にプレーパークを作ろう「グループワーク 遊びの周りで起きること」

〈コーディネーター〉邦永洋子 (NPO 法人こがねい子ども遊パーク)

(1) 実施日 平成24年7月14日 (土)

(2) 会 場 小金井市婦人会館

(3) 参加者 大人9名・子ども3名 (保育)

(4) 内 容

これまでの振り返りと、遊びの周りで起きる子ども同士の問題から、大人の関わりを考えた。

第9回 地域の中にプレーパークを作ろう「巨大滑り台を作ってみよう」

〈講師〉鎌上茂樹（森遊クラブ代表）

- (1) 実施日 平成24年8月19日（日）・20日（月）・21日（火）
- (2) 会場 武蔵野公園
- (3) 参加者 大人15名・子ども23名 計38名
- (4) 内容

3日間かけて実際に使える本格的な滑り台を作り、ペンキを塗って完成。思いっきり滑って遊んだ。

第10回 地域の中にプレーパークを作ろう「木工作教室」

〈講師〉鎌上茂樹（森遊クラブ代表）

- (1) 実施日 平成24年9月1日（土）
- (2) 会場 梶野公園
- (3) 参加者 大人11名・子ども12名 計23名
- (4) 内容

車輪付きの「コロピス」、「森のカレンダー」、「木の家」のうち、どれか好きなものを選んで作った。

第11回 地域の中にプレーパークを作ろう「秘密基地を作ろう」

〈講師〉松下直子（くじら山プレーパーク）

- (1) 実施日 平成24年10月13日（土）
- (2) 会場 梶野公園
- (3) 参加者 大人16名・子ども18名 計34名 ※その他けやき保育園園児多数
- (4) 内容

大きな秘密基地を作って楽しんだ。

第12回 地域の中にプレーパークを作ろう「効果的な広報の仕方」

〈講師〉谷居佐智世（NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会・プレーリーダー8年）

- (1) 実施日 平成24年11月10日（土）
- (2) 会場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 6名
- (4) 内容

広報の極意を学んだ。

第13回 地域の中にプレーパークを作ろう「梶野公園プレーパーク構想」
〈コーディネーター〉邦永洋子（NPO 法人こがねい子ども遊パーク）

- (1) 実施日 平成24年12月8日（土）
- (2) 会場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 7名
- (4) 内容
1日プレーパークや梶野公園でのプレーパークに関わる話し合いを持った。

第14回 地域の中にプレーパークを作ろう「プレーパーク準備会」
〈コーディネーター〉邦永洋子（NPO 法人こがねい子ども遊パーク）

- (1) 実施日 平成25年1月19日（土）
- (2) 会場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 7名
- (4) 内容
プレーパークの準備会を行った。

第15回 地域の中にプレーパークを作ろう「梶野公園1日プレーパーク」
〈講師〉渡部靖成（NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会・プレーリーダー歴8年）

- (1) 実施日 平成25年2月16日（土）
- (2) 会場 梶野公園
- (3) 参加者 273名
- (4) 内容
巨大滑り台」を中心に、ダンボール遊び、ロープ遊具、集団遊びを仕掛けた。

第16回 地域の中にプレーパークを作ろう「プレーパークをしてこれから」
〈コーディネーター〉邦永洋子（NPO 法人こがねい子ども遊パーク）

- (1) 実施日 平成25年3月10日（日）
- (2) 会場 小金井市婦人会館
- (3) 参加者 6名
- (4) 内容

1.日プレーパークの振り返りから始まり、梶野公園の成り立ちとサポーター会議について話題にした。話し合いの中から、梶野公園で新たに活動を始めたいという意見が出され、会の名称を「つくし」と決定し、5月からの開始に向けて準備をすることになった。

2 得られた成果

- (1) 16回にわたる長い講座に毎回参加できた方は少なかったが、単発事業としても魅力を感じてもらえたようで、木工教室やロープワーク教室などプレーパークを知らなくても参加した方も多かった。
- (2) 世話人スタッフたちにとっても、この講座が研修の機会になり、自分たちの安全管理の考え方を確認し、見逃していたところなどを振り返るきっかけになった。地元で講師を呼べたことで、まだ子どもが小さい保護者は助かったと思う。
- (3) 梶野公園のプレーパークの活動は、この講座を経て新たな展開になりそうである。講座の参加者とその友人たちが、今の活動に加えて新たに水曜日に放課後の遊び場を開くことになった。「ちびっこプレーパークつくし」の誕生である。
- (4) 私たちは、新しい地域のつながりを考えるとき、プレーパークのような居場所があるととても効果的だと考える。ここに来れば誰かがいる、ここに来れば安心だという場所を地域の中に作ることは、子どもを育てる上で大きな支えになると思う。この講座を通じて、プレーパークへの市民の理解が確実に深まったことは、何よりも大きな成果である。

[社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは]

① 高卒認定資格取得学習会

1 事業の実施内容

- (1) 期 間 平成24年3月～平成25年3月
- (2) 実施日 毎週木曜日 午後6時～9時 計52回実施
- (3) 会 場 アフターケア相談所ゆずりは
- (4) 参加者 260名（1回につき5～6名の参加）
- (5) 内 容

社会的養護施設の退所者で中卒・高校中退の若者を対象に、高卒認定資格取得のための無料学習会を実施した。

2 得られた成果

- (1) 高卒認定資格取得試験（8月と11月の2回実施）に、7名が受験した。

その結果は次のとおりである。

- ・高卒認定資格取得者 1名
- ・8科目取得 1名
- ・4科目取得 2名
- ・2科目取得 1名
- ・1科目取得 2名

(2) 平成24年12月27日付け読売新聞全国版で、ゆずりはでの学習会の様子が掲載された(別紙参照)

(3) 施設退所者が再び就学の機会を得ることは容易ではない。しかし、親や家族を頼れず、低学歴というハンディを抱えた若者こそ就学の場を得ることは、今後の就労に繋げていくために欠かせない資源となる。ゆずりはでの就学支援の取り組みは、今後社会的養護施設退所者のアフターケアのための先駆的かつ必然的実践となった。

3 特記事項

アフターケア相談所ゆずりはの活動が東京都から評価され、平成25年度から東京都の地域生活支援事業に認定していただき、補助金が交付されることになった。東京都新しい公共支援事業で支援していただいた助成金を基に、有意義な活動に取り組めてきたことも、公的な事業として認定された大きな要因となった。

② 相談支援事業

1 事業の実施内容

- (1) 期 間 平成23年10月～平成24年3月
- (2) 実施日 毎週土曜日または木曜日 午前10時～午後4時 計49回実施
- (3) 会 場 アフターケア相談所ゆずりは
- (4) 参加者 延105名(1回につき概ね2名のカウンセリング)
- (5) 内 容

子育てに悩んだり、幼い頃適切な養育環境で育ってこられなかった背景を持つ母親への相談支援。カウンセリング的な支援をメインとしているが、DV・借金等の相談も受ける。専門家(臨床心理士・弁護士等)、当事者スタッフに直接支援に関わってもらっている。

2 得られた成果

- (1) 1回に受けられる相談は2名までだが、電話相談等が確実に増え、ゆずりはでの相談支援が広がっているのが伺えた。

- (2) 後期では、家庭内暴力で悩む母からの相談が相次ぎ、児童相談所と連携し支援を行ったケースもあった。
- (3) 専門家から無料のアドバイスを受けられること、また開催曜日が土曜日で役所等が休みのときに実施されることで、相談者から喜んでいただけた。

3 特記事項

アフターケア相談所ゆずりはの活動が東京都から評価され、平成25年度から東京都の地域生活支援事業に認定していただき、補助金が交付されることになった。東京都新しい公共支援事業で支援していただいた助成金を基に、有意義な活動に取り組めてきたことも、公的な事業として認定された大きな要因となった。

《ホームスタート・小金井 ホームビジター養成講座》

回数	単元	日程/場所	時間	講座内容	講師	備考
第1日目	1	2012年 9月11日(火) 上ノ原会館 9-17	午前 10-12	オリエンテーション HSホームビジター養成講座申込書記入 地域・スキーム・オーガナイザー紹介 用語の説明・ルール決め 自己紹介ワークショップ	坂本明子OG	HS オーガナイザー
	2		午後 13-15	ホームスタートの内容・意義を学ぶ 家庭訪問型子育て支援の役割と意義	山田幸恵HSJ理事 事務局長	HSJ講師
第2日目	3	2012年 9月14日(金) 石黒工務店	午前 10-12	家庭とは何か・親とは何か 価値観と多様性	笹尾雅美先生	地域の福祉分野の関係者で 母子保健や子育て支援の専門家
	4		午後 13-15	子どもの理解 子どもの発達・子どもの障害・子どもの人権 子どもへの関わり方	笹尾雅美先生	地域の福祉分野の関係者で 母子保健や子育て支援の専門家
第3日目	5	2012年 9月18日(火) はけ	午前 10-12:30	傾聴の意義と方法1	PLA 寺田和子先生	地元の専門家
	6		午後 13:15- 15:45	傾聴の意義と方法2	PLA 寺田和子先生	地元の専門家
第4日目	7	2012年 9月28日(金) 石黒工務店	午前 10-12:30	家庭で活動する上でのポイント 信頼関係・倫理・危機管理	坂本明子OG	HS オーガナイザー
	8		午後 13:30- 15:30	午前の続き:ワークショップ ホームビジターの実務	坂本明子OG	HS オーガナイザー
第5日目	9	2012年 10月9日(火) AM:前原暫定 PM:はけ	午前 10-12:30	問題や悩みのある家庭への理解	宮澤陽子先生	地元の専門家
	10		午後 13:30- 15:30	地域の子育て支援の実際と連携 子ども・子育て支援のための制度・地域の 子育て支援の資源を知り地域で協働する 関係者(専門家)たちとの連携と その仕事の実際を学ぶ	佐藤千づる 子家センター長	地域の行政or福祉分野の関係者で 母子保健や子育て支援の専門家
第6日目	11	2012年 10月12日(金) 石黒工務店	午前 10-12:30	家庭の中で活動する1 傾聴と協働の実際(演習)	森田圭子HSJ理事	HSJ講師
	12		午後 13:15- 15:45	家庭の中で活動する2 傾聴と協働の実際(演習)	森田圭子HSJ理事	HSJ講師
第7日目	13	2012年 10月16日(火) 上ノ原9-17	午前 10-12	シェアリング・終了テスト	坂本明子OG	HS オーガナイザー
	14		午後 13-15	修了式/登録/交流会	坂本明子OG	HS オーガナイザー
第8日目	15	2012年 10月19日(金) 石黒工務店	午前 10-12	終了後の個別面接	坂本明子OG	HS オーガナイザー

申し込み:住所:
氏名:
電話:
FAX:
e-mail:

FAX送信先:042-381-5081(担当:高橋)

急増 ④

生活保護

東京都内で生活保護を受ける男性(21)は、3歳の頃から同居していた父親の兄から虐待された。今も、大人の男性におびえてしまう。「あの恐怖がよみがえりそうで、就職しても怖くて働けなかった」と言う。

両親は早くに離婚。父親が仕事で留守になると、伯父は男性に暴言を浴びせたり、風呂に沈めたりした。

6歳で保護され、児童養護施設へ。中学卒業後、施設を出て造園業や印刷会社など5つの職場を転々とした。失敗してとどめられると、虐待の記憶がよみがえった。人間関係におびえ、仕事が身につかなかった。

父親は行方不明で、生死も分からない。男性は生活に行き詰まり、19歳で生活保護に頼ることになった。

「幼い頃の虐待がトラウマになり、就労したくても難しい子が多い」。この男性のように、施設退所後に行き場を失う若者を支援する相談所「ゆずりは」(東京都小金井市)の所長、高橋亜美さん(39)は話す。

中卒や高校中退と学歴が低

若者働けない傷に心

家庭の困窮、虐待被害

く、対人関係にも困難を抱え、虐待で傷付いた子たちが、自立でも苦しむ姿を見てきた。「若いのに生活保護なんて甘えていると言われる。でも、虐待のトラウマの治癒や自立の支援が不十分だったことで、働けない状態に陥った。安心して働ける場を用意することが必要だ」と訴える。

非正規労働者が増え、年収200万円以下のワーキングプア(働く貧困層)も多いなか、働ける年代の受給者(2)に激しい目が向けられている。働ける年齢層を含む受給世帯は約28万5000世帯。5年で2.6倍に増えた。2008年のリーマン・ショック後、

急増したが、背景は複雑だ。

若者の相談支援を行う一般社団法人「インクルーシブネットよこはま」の鈴木晶子さん(35)は、「困窮する若者には、貧困などで養育機能を失った家庭で育った子が自立つ」と言う。

10年から国のモデル事業として、主に30歳代以下の若者に自立支援を行ってきた。支援した約700人の相談内容は就労問題が中心だが、うつ病や発達障害(48%)、家庭内暴力や虐待(34%)、生活困窮(30%)と、重複する課題を抱えていた。約700人のうち生活保護の受給者が2割を占めた。

同団体では、貧困家庭の子が多い高校に相談員を派遣し、福祉事務所とも連携して生徒の生活相談に対応している。アルバイト探しや進路の相談にも応じ、自立の後押しに力を入れる。

「早い段階から支援しなければ貧困の再生産は続く。受け

ご意見、ご感想をお寄せください。あて先は、ページ右下の「社会面に情報を」にありませう。

給者を減らすには、若い世代への先行投資が欠かせない」と鈴木さんは言う。

就労可能な人の受給を減らすため、自民党は、就職あっせんを断れば給付を減額・停止する仕組みを検討すると、総選挙で掲げた。

東京都墨田区で、父親(66)とともに2年前から生活保護を受給する男性(40)は、新政権の動向に不安を感じている。

中学を出て、プレス工として数か所働いてきたが、「仕事がなくなくなった」と解雇された。年齢や学歴の壁にははまられ、企業に応募しても面接に進めない。

自治体とハローワークが組み、受給者の状況を知るケースワーカーとも連携して職業紹介を行う事業を、国が昨年6月スタート。この事業に取り組み始めた墨田区では、10か月間で104人の受給者が就職できた。

今月末から、男性もこの就労支援を受ける予定だ。「来年早々には働いて、父を安心させたい」。そう願う、年明けに希望を



高橋亜美さん(中央)たちは、就労支援として学習会も開いている。若者が高卒認定の試験に向けて勉強する(東京都小金井市の「ゆずりは」)。

IV—V 講演会・学習会等事業

1 事業の概要

子育て・子育てに関する講演会・学習会等を開催した。

2 実施した主な内容

[平成23年度]

(1) 講演会「イマドキの子育て事情と支援のあり方」

日時 平成24年1月22日(日) 午後2時～4時

場所 小金井市商工会館

講師 汐見稔幸(白梅学院大学学長)

参加者 95名

その他 保育実施

(2) 学習会「子育て支援ネットワークの必要性を考える」

日時 平成24年3月24日(土) 午後2時～4時50分

場所 前原暫定集会施設

コーディネーター 久住智治(文京区企画政策部参事・前文京区子育て支援課長・前子育て応援とうきょう会議NPO等ネットワーク形成事業検討委員)

参加者 21名

その他 グループ討議をワールドカフェ方式で行った。

[平成24年度]

(1) 講演会「子どもの発達支援と地域連携」

日時 6月30日(土) 午後2時～5時

場所 萌え木ホール

内容 第1部(午後2時～3時30分)

講演会「子どもの発達支援と地域連携」

講師 新井利明(公益財団法人明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター長)

第2部(午後3時45分～5時)

意見交換

参加者 110名

その他 ① 保育実施

② 黄金ネットワークと共催

(2) 学習会「小金井子育て支援サイト“のびのびーの”の有効活用の仕方」

日 時 12月9日(日)午後4時～5時20分
場 所 前原暫定集会施設
内 容 学習会「小金井子育て支援サイト“のびのびの”の有効活用
の仕方」
※ 会場にパソコンを持ち込み、操作方法を含めて説明した。
講 師 正木賢一(東京学芸大学准教授)
参加者 18名
その他 終了後、交流会を行った。

(3)「乳幼児応急救護講習会」

日 時 1月27日(日)午後2時～4時45分
場 所 萌え木ホール
内 容 ① 午後2時～3時
「事故や急病で慌てないようにするために」
講 師 黒澤照喜(東京都立小児総合医療センター総合診療科
医師)
② 午後3時～3時40分
「応急救護法の実際」(人形使用)
講 師 加藤純一(小金井消防署救急隊長)
③ 午後3時40分～4時25分
「のどの風邪の対応」
講 師 黒澤照喜(東京都立小児総合医療センター総合診療科
医師)
④ 午後4時25分～4時45分
質疑・応答 黒澤照喜、加藤純一
参加者 62名
その他 保育実施

(4) 講演会「子どもを産み育てるということ」

日 時 3月3日(日)午後2時～4時
場 所 萌え木ホール
内 容 ① 午後2時～3時
講演会「子どもを産み育てるということ」
講 師 矢島床子(矢島助産院(国分寺市)院長)
② 午後3時～3時20分
「矢島助産院の母と子のサロン(ウィメンズサロン・ファミリー
サロン)について」
講 師 矢島助産院スタッフ

③ 午後3時20分～4時

質疑・意見交換

参加者 31名

その他 保育実施

2 得られた成果

- (1) 学習会を除く講演会・講習会については、全てアンケートをとっているが、いずれも高い評価をいただいた。
- (2) 学習会を除く講演会・講習会で保育を実施したことも評価された。
- (3) アンケートで「希望する講演会等」を聞いているが、多くの回答があり講演会や学習会のニーズが高いことが分かった。
- (4) 協議会が開催した講演会・講習会は、確実に子育て支援につながったと考える。

V 事業実施上の課題

- 1 平成23年8月の協議会の設立に向けて多くの子育て関係団体（約60団体）に参加を呼びかけたが、当初は反応が鈍かった。協議会の趣旨が十分理解されなかったことに加え、協議会に参加しなくても今の活動のままでよいという判断もあったものと思われる。しかし、ねばり強く呼びかけ2回の準備会を経て少しずつ理解が広がり、設立にこぎつけることができた。
- 2 子育て支援ネットワークづくりが行政計画にも掲載されている重要施策の一つであったこともあり、小金井市は当初から協議会の設立、東京都新しい公共支援事業の助成金を受けての事業展開に非常に協力的であった。協議会の設立及び事業が、地域の子育て力の向上に資すると期待したからである。なお、支援申請にあたって、事業計画、予算等を協議会参加団体と小金井市が協働して作成した。
- 3 設立準備段階では、東京都新しい公共支援事業の採択の要件の一つである「継続性」について、課題となっていた。これについては、東京都に対する平成23年8月10付支援申請書に添付した小金井市長名の意見書で「平成25年度以降についても、市として本協議会に積極的に参画し、連携・協力を図り、地域の子育て力の向上を目指したい」旨表明したとおり、平成25年度小金井市から補助金2,187,000円を受けることができるようになり、今後の見通しがついたところである。これに加えて、毎年度民間助成金を得て、事業の充実を図っていく考えである。
- 4 「波及効果」についても課題であったが、市報、協議会リーフレット、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびの！」等で協議会の設立及び活動（事業）を広く広報したこともあり、行政を含めた協働の例として、他の分野あるいは他市に影響を及ぼすものと期待できる。
- 5 今後の課題としては、民間助成金を含めた独自財源を確保し、協議会ならではの事業をいかに継続的に実施していくかである。また、NPO法人化についても話題になっている。行政から事業委託を受けることも検討していく必要がある。

VI モデル事業として他の NPO・行政等に紹介する仕組み

今後も市報、協議会リーフレット、小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」等で、協議会の目的、活動（事業）等を広く広報するとともに、協議会への参加を呼びかけていく。

Ⅶ 平成25年度以降の予定

- 1 平成25年度については、小金井市から2,187,000円の補助金が交付されることになった。また、民間団体の助成金を得る予定である。(複数の申請に向けて準備中)
なお、小金井市の補助金については、平成26年度以降も交付される見込みである。
- 2 平成25年度事業計画(別紙参照)が総会で承認された。
- 3 平成25年度予算(別紙参照)が総会で承認された。
- 4 以上のことから、平成25年度は事業計画に沿って諸事業を実施し、平成26年度以降についてもさらに充実していく考えである。

平成25年度小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会事業計画

- 1 「のびゆくこどもプラン 小金井」では、「子育て支援ネットワーク」事業の内容として、「保育所、幼稚園、児童館、学童保育、子ども家庭支援センター、保健センター、子育てサークル、NPO などの子育て支援ネットワークづくりを目指し、相互援助と情報発信を行う。」としている。
- 2 東京都新しい公共支援事業が平成24年度をもって終了することから、平成25年度は小金井市からの補助金と民間団体からの助成金(予定)を得て、上記の「のびゆくこどもプラン 小金井」の趣旨を勘案しつつ、下記の事業を実施する。

記

- 1 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の運営
 - (1) 子育て支援サイト、市報、各種イベントでのチラシ配布等により、協議会の活動をPRし、参加団体の増加を図る。
 - (2) 通常総会のほか、必要に応じて役員会、各部会等を開催する。
 - (3) メーリングリスト等を通じて情報を共有する。
- 2 子育て支援サイトの管理運営
 - (1) 子育て支援サイトは、平成24年度をもって概ね完成するが、より利用価値のある、親しみやすいサイトとするため、利用者の意見などを基に改良を加える。
 - (2) 様々な手段で、利用をPRする。
- 3 講演会・学習会等の開催
子育て・子育てに関する講演会・学習会等を4回程度開催する。
- 4 「キッズカーニバル KOGANEI」の共催
協議会が共催することにより、さらに充実・発展させる。
- 5 「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」の広報・普及活動
平成24年7月の協議会総会で採択された「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」の広報・普及活動を行う。
- 6 交流会の開催
参加団体構成員を中心に交流会を開催する。
- 7 その他、総会及び役員会で決定された事業の実施

平成25年度小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会予算

【収入】

・小金井市補助金	2,187,000円
※ 小金井市補助金については、事務局事務委託料及び小金井子育て支援サイト維持・管理業務委託料に充てる。	
・民間団体助成金	300,000円
合 計	2,487,000円

【支出】

・小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の運営に要する経費	1,002,560円
(1) 事務局事務委託料	952,560円
[内 訳]	
ア 事務局人件費	792,000円
イ 事務費	72,000円
ウ 管理費	43,200円
[委託料]	
(792,000円+72,000円+43,200円)×1.05	
=952,560円	
(2) 協議会の広報に要する経費	50,000円
※リーフレット作成経費	
・小金井子育て支援サイトの管理運営に要する経費	1,234,440円
(1) 小金井子育て支援サイト維持・管理業務委託料	1,234,440円
・子育て・子育てに関する講習会・学習会等に要する経費	250,000円
合 計	2,487,000円